<別紙１>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

② 施設・事業所情報

名称：ポピンズナーサリースクールたまプラーザ		種別：認可保育所	
代表者氏名：松浦　宴子		定員（利用人数）： 76名	
所在地：〒225-0002　横浜市青葉区美しが丘5-2-34			
TEL：045-905-2788		ホームページ：https://www.poppins.co.jp/educare/	
【施設・事業所の概要】			
開設年月日　2021年4月1日			
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社ポピンズエデュケア			
職員数	常勤職員： 17名	非常勤職員 8名	
専門職員	（専門職の名称） 名	調理師 1名	
	保育士 19名		
	栄養士 2名		
施設・設備の概要	（居室数）	（設備等）	
	乳児保育室　3、多目的室　1、調理室　1、幼児保育室　3、調乳室　1、休憩室　1、事務室　1	冷暖房、床暖房、空気清浄機	

③理念・基本方針

理念「働く女性を最高水準のエデュケアと介護サービスで支援します。」

基本方針「人生で最も重要な時期の人間教育を目指します
寛容な人間
聡明で愛情深い人間
探求心の旺盛な人間
グローバル社会で活躍できる人間　　　　　」

④施設・事業所の特徴的な取組

・エデュケアプログラムによる養護と教育の一体的展開。（脳科学と発達心理学の知見を踏まえ、養護と教育の両方を重視し、０歳児から個々の個性や特徴を伸ばす取り組みを行っている。）
・ドキュメンテーションというツールを用いて、保育者は子どもの活動記録をとって可視化し、職員間でのカンファレンスを実施することで、保育活動を共有し、今後の保育の実践に繋げている。
・乳児クラスは育児担当制を行い、一人一人の子どもの生活の基本を支え、丁寧に関わっている。
・幼児クラスは異年齢保育を行い、異年齢ならではの関わりを通して、互いの違いや個性を認め合う気持ちを育んでいる。
・わらべ歌を通じ、子どもと保育者、または子ども同士のスキンシップ・コミュニケ

ーションを図っている。
・トマトの栽培や、サツマイモの栽培及びサツマイモ堀り体験・梅ジュースづくり等を通じて、食育活動の促進を図っている。
・子ども主体の遊びを大切にしながら、玩具を提供し、遊べる環境を作っている。
・運動会では全園児が参加し、それぞれの発達に応じた競技を行って、子ども同士・子どもと保護者・保護者と保育者・保護者同士の交流等を図った。
・前期は3歳児クラスと4～5歳児クラスの保育室配置とし、3歳児の育ちや発達に併せて指導しています。
・後期は3～４歳児クラスと5歳児クラスの保育室配置とし、５歳児は就学に向けた活動を行っています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年　7月12日（契約日）　～ 2024年　2月　6日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0回（　　　　年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

特長

子ども自身が興味のある遊び、好きな遊びを選び、友だちと遊びを工夫して楽しめる環境を整えている

遊びや玩具はいくつかのものを用意し、子どもたちが自分で選択できるようにしている。絵本や製作などさまざまなコーナーを工夫し、それぞれの遊びに集中できるように環境を整えている。散歩や公園は子どもが行きたい場所を聞いて行くようにしている。ルールのある遊びでも、お互いに遊び方を工夫して新しいルールを作ったりするなど、自由な発想を取り入れていきいきと活動できるよう援助している。

食育計画をもとに子どもの興味がわくような食育に取り組んでいる

全体的な計画に基づいて年間の食育計画を栄養士が作成している。なじみのあるカレーやおにぎり作りの他に、砂糖からつくるべっこうアメといった、1つの食材から形が変化してできる料理など、子どもが興味のわくような食育に取り組んでいる。また、プランターでさつま芋や夏野菜を育てたり、近隣の畑で収穫を体験するなど、食の大切さを伝える機会を設けている。日々の取り組みは連絡帳や写真付きのドキュメンテーションを入口に掲示して保護者にも伝えている。

地域社会との連携を通じて親子交流や防災対策を推進し、専門的な情報提供で地域に貢献している

近隣の保育園と共同で「AONICO広場in たまプラーザ」というイベントを実施し、地域の親子が楽しみながら情報を共有できる場を提供している。自治会活動にも積極的に参加し、地域の防災対策や被災時の避難場所の確認を行って、地域の人々との交流を図り、地域社会との結びつきを大切にしている。地域の畑のオーナーと連携し、子どもたちが野菜や果物の収穫体験を行い、その収穫物を持ち帰ることができる活動も展開している。日常的には、戸外活動時に地域住民と挨拶を交わすことで、地域に愛される保育園を目指している。

今後期待される点

定期的な保護者との面談が期待される

朝夕の送迎時には、保護者に園での子どもの様子を伝えてコミュニケーションを取り、保護者と信頼関係を築くように努めている。保護者の心配事や相談、意見が引き

出せるよう、クラス担任だけでなく、施設長や主任は積極的に声かけをしている。保護者から相談がある場合は保護者の勤務形態を考慮した時間を選び、面談はプライバシーに配慮した場所で行っている。今後はさらに定期的な全保護者との面談が期待される。

中長期計画の策定と具体的な運用の強化を期待したい
法人の中長期計画が存在しているが、園としての具体的な中長期計画がまだ策定されていない状況である。現行の単年度の事業計画では、数値目標は設定されているが、園の具体的な課題に対する明確な方針などが不足しているため、園の特性や課題を踏まえた中長期計画を策定し、それを日々の運営に活かすことが望まれる。
また、計画の内容を職員や保護者に対してしっかりと共有し、理解を深めることも必要とされる。園全体としての共通の目標と方向性を明確にし、その実現に向けて職員や保護者が協力し合う環境を整えることに期待したい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回第三者評価を受審させていただき、改めて自園の運営について考えさせられました。自身に足りないこと・今後取り組んでいきたいことが具体的に職員と共有しやすくなりました。中・長期計画を立てることで今後どういった園にしていきたいのか明確になるとのアドバイスもいただき、大変参考になりました。
現在、子育て支援に向けた社会全体の取り組みが進んできており、私たち保育者として子どもの発達過程において何が必要なのか、今後もアドバイスをいただきながら職員一丸となって保育を進めていきたいと思います。
ありがとうございました。

⑧第三者評価結果

別紙２のとおり